

全国の空自OBの皆様へ

第5・7飛行隊記念碑再建のための寄付金の入金状況と工事開始について
(中間報告)

梅雨もあけ、梅雨明け10日といわれる暑い日が続いています。

オリンピック開会式も23日無事終わり国の威信をかけた世界のアスリートたちの熱い戦いが始まりました。コロナ禍での会運営と、いつになく具体策のない何でも反対コールが続く中特に日本人の選手たちの活躍に期待したいとおもいます。

さて、5月末から活動を開始し、6月初め「なの会」「天馬の会」「つばさ会」「翔友会」の皆様そしてSNSなどを通じて標記「第5・7飛行隊記念碑再建のための寄付金」を、当初予定7月15日を期限としてお願いしていましたが、うっかりしていた方々のため7月末まで延長することとしました。

しかしながら寄付金の入金状況は順調であり、再建予定額は50万円でしたが、7月25日まで全国のOBの皆さん民間の皆さんなど51の団体・個人から寄付がありその額56万円を超えました。

寄付は、翔友会・松島基地OB会、隊友会東松島支部、5・7飛行隊OB、松島基地在職OBの多岐にわたりました。特にこの中でエンブレムである鷲2体については、50年以上前に作られたものであり、現存の有無を含め相当の費用がかかると予想していましたが民間団体である「デコトラの全国哥麿会会長」からご寄付をいたたき、かつFSFの即応桜の皆さんからも高額の寄付をいただきました。

この全国哥麿会は、東日本大震災の際に、東松島市を含む各地で被災者支援を臣なっていました。特に東松島市には、毎年何らかの形で被災者の心の復興に尽力され最近では、3月14日、伸びるの震災慰霊碑に全国からデコトラ約30台ほど集まり献花等の慰霊行事およびライトアップのサービスをしてくれました。

この日市長から感謝状を贈呈しています。

実工事は、7月末の予定です。

集まった寄付金は、当時予定の記念碑復旧に加え、今までなかった案内板（説明板）の設置に充当すると共に、残余の基金は、准曹士会などに寄付し、今後続くであろう保守整備費、環境美化などに利用していただくように手配したいと思います。



平成2年当時の記念碑



寄付を受けた鷲



哥麿会のライトアップ